

成果報告書

慶應義塾大学 環境情報学部3年 山崎凜紗

活動概要

- タイトル: 駐在員家族のオートエスノグラフィからみる、タイ・バンコクでの現地コミュニティとの分断と交流
- 期間: 2024年8月20日～9月20日
- 場所: タイ

活動目的

本研究は、申請者自身のバンコクでの駐在員家族としての経験を基に、駐在員と現地コミュニティ間の貧富の格差や交流・排除の関係性を探るオートエスノグラフィ映像作品の制作を目的としている。本助成金を活用し、バンコクを再訪し、かつて暮らしていた地域のみならず、スラム地区や歓楽街を含む多様な地区を訪問し、両者を対比しながら調査を行った。2024年10月現在、撮影した映像を編集しており、2024年内に完成予定。各種学会、上映会等で上映を行う予定である。

従来の駐在員研究が駐在員や企業の視点に偏りがちであったのに対し、本研究では現地コミュニティの視点から駐在員を外から捉え、駐在員の滞在が現地に与える影響や、両者の関係性、駐在員に内面化された権力性や排他性に焦点を当てた。

活動内容

バンコクを中心に、様々な地域を訪問し、記録を行った。

1) バンコク周辺

申請者は、かつての生活圈を再訪し、居住していた地区や通っていた学校、父親が働いていた事務所、接待で利用されていた飲食店や歓楽街などを訪れた。また、クロントイスラムでは、シーカ財団が支援する図書館を訪問し、コミュニティ内での支援活動に触れた。観光地化が進んでいないクロントイ市場や、地元住民や旅行者が集うアーツ&カルチャーセンターも訪問し、そこで作品を売るアーティストとの対話を通じて、芸術を通じたコミュニティの活動について調査した。さらに、バンコクから少し離れたバンガチャオやアユタヤなど、自然環境や伝統文化が重視される地域も訪れた。歓楽街にも足を運び、そこでの消費活動における現地住民との接点を調査した。

2) その他地域(ホアヒン、パンガン島、クラビ)

ホアヒンはバンコクから列車で約4時間のリゾート地であり、地元のホテル従業員やタクシー運転手との会話を通じて、観光業が主要な収入源であることが確認された。また、ミャンマーからの移民(難民)の増加も地域に影響を与えている。パンガン島では、陶芸家やアーティストのコミュニ

ティを訪問し、彼らが観光客と共存しながらも、島の文化を維持しようとしている姿勢が見られた。一方で、観光地化が進む中で地元文化が商業的に扱われている状況も確認された。特にフルムーンパーティーについて、観光収入を歓迎する一方で、島の日常生活への影響に懸念を示す住民もいた。さらに、クラビタウンや皮皮島に赴いた。南部タイであるクラビタウンはイスラム系住民が多く住む場所であり、そこに暮らす人々は非常に穏やかであった。

謝辞

研究調査に必要となる費用のご支援をいただきました慶應 SFC 学会様に深く感謝申し上げます。